



日本リンホフクラブ会報

Japan Linhof Club (JLC)

VOL.10

2011年9月25日発行

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 株式会社ワイズクリエイティブ内

TEL 03-5689-2776 FAX 03-5689-2786

日本リンホフクラブ会報制作委員会 (川太、北島、米澤、酒巻、事務局)

<http://www.linhof-club.com> info@linhof-club.com

Q1. 花畑先生は、「尾瀬の仙人」と呼ばれるほど40年ほど前から現在に至る迄、毎年何回も尾瀬に通い続けておられます。それ程惹き付けられる尾瀬の魅力とは何でしょう？

尾瀬の魅力ねえ、何だろう？これ迄尾瀬の魅力を実験に考えた事はないが、強いて言えば箱庭的な風景だろうか。これ程の湿原に簡単に行ける所というのは尾瀬が一番。他にも高層湿原はあるが、みな遠い。

僕は元々山屋(登山家)。20代は北アルプスにしょっちゅう出掛けていたが、残雪期から初夏にかけての時期は中途半端に感じていた。ふとしたきっかけで尾瀬へ行ったら水芭蕉が物凄く綺麗だった。また、秋(9/下旬)には草紅葉に感動。こうして尾瀬へ行きだしたのが30代後半。最も面白いと思ったのが朝霧の光景。こういう幻想的な光景は尾瀬でしか見られない。それではまってしまったのかもしれない。

(尾瀬には)毎年何回も出掛けるが、毎回行くたびに違った光景が見られる。僕の撮影ポイントは何カ所も有るが、まだ満足の出来るのが撮れてないので通っているだけ。そんなに格好のいいものじゃない。それと、尾瀬の山小屋の人達の人柄にほれたというのは言える。

Q2. 尾瀬については多くの写真家が写真集を出しています。その中で先生の「尾瀬」(1989年刊)を拝見すると、大判(スーパーテニカV)で撮られた精緻な四季折々の映像がほのぼのとした気持ちにさせ、「はるかな」尾瀬が身近に感じられます。また、尾瀬の魅力余すところなく伝えていきます。

奇を衒いたくない。いいなあ、と思ったあるがまますを捉えている。それが僕の撮影の基本。勿論、事前にイメージを膨らませて撮ることもあるが。長年通っていると尾瀬が分ってくる。今はこういう状況だが、この先はこうなるだろう、と読めるようになる。同じ場所で撮り尽くしたいと考えている。毎年同じ場所に通っても同じ写真は撮れない。だから通っている。分ってくると、もっともっと余計

に撮りたくなる。風景は変わらないと言われるが、(本当は)変わっている。

Q3. 先生の写真集では水芭蕉やニコウキスゲ、リュウキンカなどの高山植物がとても綺麗に撮られています。最高な状態で高山植物を撮れる様、いつ行ったらベストか事前に判断できたら大変楽なのですが。

現地の人と仲良くなって聞くのが一番だが、花だと大体咲く時期が分かっているので、その前に出掛けて良く観察すれば今年は綺麗に咲くかどうか分ってくる。満開になったらもう遅い。7~8分咲きの頃がベスト。画面手前に美しい花がくるようにポジショニングを考えている。その為にはロケハンが欠かせない。撮る前は花の一枚一枚を良く観察して、縮れたり折れたりしているのを除けるなど苦労するが、撮るとなったら僕は早いよ！

当たり年となるかどうか次第に分ってくるもの。残雪が豊富だと、その年の花は綺麗になると言われている。今年の残雪は連休中は豊富だったが、その後急に暑くなり一気に融けてしまった。でも5月下旬に出掛けたが、今年の水芭蕉は凄く良かった。

Q4. 群馬県の鳩待峠から尾瀬に入るルートは、一番楽に「桃源郷」に到着します。そこには旅行会社のワッペンをつけた人がわんさといま。一方、昔は賑やかだった大清水から(三平峠を経て)尾瀬沼に行くルートとか、(福島県の尾瀬御池から燧岳の北側を巡る)燧山林道や渋沢温泉小屋経由のルートは、殆ど会う人がおらず閑散としています。人の少ない所を目指して行くのも作品作りの手法と思うのですが。

最近はどこへでも人が行く。人の行かない所は少ない。尾瀬はやはり鳩待峠から入るのが一番。皆が行く所が撮影ポイントとしてはいい。朝夕の写真がいいので日帰りするのではなく、一泊か二泊した方がいい。朝の5時半~7時頃の霧が一番綺麗だ。泊まっている人が少ないので十分に撮れる。朝霧ただよ尾瀬ヶ原の写真は俯瞰して撮るには至仏山に登らねばならない。僕は、山ノ鼻の小屋を真夜



花畑日尚 プロに聞く

中の2時半~3時に出る。そうすると霧に埋もれた幻想的な尾瀬ヶ原が撮れる。

Q5. 尾瀬をこれから撮りたいという当クラブ会員に、これからの季節(秋から冬にかけて)お勧めの撮影ポイントを教えてください。

9月下旬の尾瀬は草紅葉が一番。湿原独特の光景が展開する。この頃の朝霧がベスト。尾瀬の紅葉は割と地味。ウルシやツツジが真っ赤に染まるが、黄色が中心。その中で草紅葉の赤が映えてくる。この頃になると霜が降りる。これを撮るのもいい。(今から出掛けるならば)草紅葉と霜狙いがいいだろう。また、小屋閉め前の晩秋(10/中~下)もいいよ。落葉松の紅葉が綺麗になってくる。この時期は、ブナの多い樹林帯が良くなってくる。場所としては燧岳の北側。

ただ、気をつけたいといけないのが熊の出現。ブナやミズナラのドングリを食べに歩き回っているので要注意だ。この頃熊がやたらに多い。今年のブナの実は豊作ではないだろうか。尾瀬では8/下旬から熊に気をつけた方がいい。特に朝夕。一人で歩く場合は鈴をつけるなどしたら、熊よけに多少の効果はあるのではないかと。でも、広々とした湿原で鈴を鳴らすのはやり過ぎ。

Q6. 高層湿原が出来上がる迄には相当の年数が

必要です。最近尾瀬へ行くと鹿の食害と思われる光景に出くわします。山小屋に泊まった夜中に、キーン、キーンと鳴く声を聞いた事もあります。湿原や湿原に咲く植物を保護する為にも鹿の駆除が必要ではないでしょうか。

確かに駆除が必要な程増えている。昼間から出現している。今年もたくさんニッコウキスゲの花芽が食べられた。ぬた場(鹿などが土を掘り返して身体についたダニなどを落とす為に泥をあびる場)がどのくらいあるか・・・！鹿は賢くて人の通った道を通らないし、鉄砲も中々当たらない。温暖化の影響かどうか、最近尾瀬にも鹿が越冬する場所があるみたい。山小屋にいても鹿の臭いがしてくることがある。

Q7. 先生は、依然として大判(4x5)、中判(6x4.5)と銀塩に拘っています。デジタルに転

向するプロが多い中で貴重な存在です。日本リンホフクラブ会員にとっても嬉しい限りです。銀塩に拘る理由をお聞かせ下さい。

僕はアナログ人間だからフィルム。銀塩とデジタルは全く別ものと考えている。デジタルはスナップにしか使わない。

デジタルから入った人は、写真の撮り方が粗い。パッと来て、パッと撮って直ぐ他所へ行ってしまふ。被写体をじっくり観察する事が無い。それが気に入らない。本当は、撮る迄の意気込みが快感。これ有るからこそ銀塩。撮る心構えは一つ。デジタル派の人にはこういう人が少ない。(だから)銀塩とデジタルは全く別物と考えた方がいいと思っている。

Q8. 先生の写真教室や作品講評会では、とても丁寧で親切な指導をされており参加者には大変好評です。誠実な人柄からくるのではと思って

《草津白根山 -火山荒れ地の素顔を撮る》

八掛良一
広範囲に点在しています。いずれを向いても被写体になり、また霧が出て絵になります。遊歩道の右側は立入り規制がありませんが、白茶けた裸地の起伏が続き足元が不安定ですので注意が必要です。道の右側は、東向きで眺望が開けているので夜明けの光景や逆光・斜光に輝く岳樺やナナカマドが対象になります。更に、岩塊や朽ち木を添えて画面構成すると異色の作品になります。

■シャッターチャンス

紅葉の見頃は10月8~15日頃。最適の期間は意外と短期間です。一夜の風雨でナナカマドは落葉し、赤い実だけを残す枯れ姿にも郷愁が感じられます。日の出撮影には駐車場から30分程進んだ展望の良い小ピーク回りでしょう。溶岩丘陵の西斜面には7時30分頃から朝日が差込みます。急

撮影地紹介

草津白根山は草津温泉を擁する活火山。有名観光スポットとして多くの人が訪れますが、意外と知られていないのが東南の方向に広がる荒涼たる溶岩丘陵でしょう。一年を通じて見るべきものの少ない荒れ地が唯一華やぐのが秋です。荒涼とした溶岩丘陵に点在するナナカマドの赤と岳樺の黄色。火山礫の大地に撒いたように広がる原色の秋彩は、“雅・錦秋”といった華やかな紅葉とは一味違った景観で、他では見る事の出来ない個性的な秋が広がります。

■撮影のポイント

山頂の駐車場から国道を離れて芳ヶ平への自然歩道を進み、白根山の山腹を巻く様に行きます。小ピーク回りの荒涼とした大地は、白樺の黄色とナナカマドの赤が絵の具を撒いたように



アクセス 関越自動車道 渋川・伊香保 I/C → 草津温泉から30分白根レストハウス駐車場
JR 吾妻線「長野原草津口」から草津温泉経由バス
問合せ先 自然公園財団草津支部 0279-88-6645(白根山について)
草津温泉観光協会 0279-88-0800
宿泊施設 (折角の有名温泉地ですから)草津温泉旅館協同組合 0279-88-3722
*撮影目的ですから未明出発も可能な“組合加盟ペンション”がオススメ。
ひと言 白根山に隣接の山田峠・渋峠は、この時期連日数百人の「写真家」が集結し混雑します。一方の草津白根山は、人影もまばらで貸切り同然の撮影会場です。言い換えれば未開拓のフィールドとしての魅力を持っているので、是非新たな視点で挑戦し、作品をものにして下さい。…さらにひと言、この時期かなり冷えしますので防寒対策を忘れずに！

いるのですが、特に意識されているのでしょうか？

折角お金を払って来てくれるのだから、すこしでもいい写真を撮って帰って欲しいと思っている。ただそれだけ。撮影場所を楽しんで欲しいし、いい写真を撮って欲しいと願っているだけだ。

—— インタビュアー所感 ——

「7月、8月は殆ど山に出掛けている」と言われる花畑プロにお聞きできたのは7月の中旬。もう顔はすっかり日焼け。同じ所に何度行ってもまだまだ撮り足りないと言われるのは、まさにプロの根性。「テーマを決めて撮る」、「同じ場所に何度も通う」というのは、「撮影前にじっくり時間をかけて被写体を観察する」という事と同じ考え方であり、撮影スタイルです。プロの写真家から学ぶのは、上達の早道です。教わる事の多いお話でした。(川太泰夫)

な傾斜地には赤や黄の紅葉に岩や朽ち木が点在し、火山ならではの特異な光景が展開されます。(川越市在住)



今年の6月11日から1泊2日の日程で、長野県小谷村にある柵池自然園にて開催された撮影会(ワイズクリエイイト主催)に参加しました。自然園の管理者によると、今年は例年になく雪解けが遅いとの事で、柵池は未だ1mを超す雪に覆われていました。所々に融雪箇所があり、雪焼けした背丈の低い水芭蕉が咲いていました。天候は2日とも概ね曇りでしたが、2日目の早朝一瞬朝焼けを見る事ができました。掲載した作品は朝焼け後の曇り空で、弱い斜光下で撮影したものです。

私は、定年退職を間近にした1998年頃

作品講評会 07.23 sat. <<<

■作品講評会報告 石橋睦美プロによる作品講評会には30名近くが参加。いつもより多くの作品が持ち込まれ、大阪より送られてきたフィルムも含め3時間近くに及びました。
《個々の作品に対して》
①いい撮影場所に立ったら、フィルムを惜しまずに、角度を変え、撮る位置を変え、レンズも代えて、タテ・ヨコとたくさん撮るほうがいい。
②主役を目立たせる位置に(主役を)配置すること。主役にはきちんとピントがこないといけない。
③エージェント向き写真。完璧な構図。ただ、リンホフクラブの作品としては構図にもう一工夫が要る。

から写真撮影の手習いを始めました。その2年後、写真界の長老で蘭撮影の第一人者である杵島 隆先生のグループに参加し、撮影のイロハから蘭撮影の手ほどきを受けました。先生は、常々「シャッターチャンスには自己を表現していることを自覚し、他者にそれを表現者として見せることの覚悟はあるか」を問われておいででした。また被写体を観るとは、更に観察し、観照することで、良い作品とはの問いに「生命エネルギーに関わっている作品である」と話しておられました。その先生が、2月20日90歳で天上界へ昇って行かれました。

④林相を撮る時は、全体の調和を乱すような存在の樹は入れない様にすべし。
⑤撮りたくなる情景は分る。でも作品作りは別。
⑥色で見せる写真は、順光線できちんとした色をだすようにした方がいい。
⑦(被写体の)形で見せる写真は、いい形を選ぶこと。形を強調した方がいい。ただ、展示作品としたりつまらなくなる。というのは情感に欠けるから。
⑧撮らなくていい場所で撮っている。
⑨減感現像して色のバランスが崩れている。減感はない方がいい。また、カメラブレの写真は駄目。
⑩つまらない物に目がいつている。目線を養うように。

柵池にて

大川 博



その悲しみが癒えぬ間の3月11日、東日本大震災の報道には息を呑み、言葉を失いました。更に、人的災害とも言うべき原発事故の発生以後、今回の撮影会までカメラを手にすることが出来ませんでした。

大判カメラの雄であるリンホフマスタートヘニカの中古品を入手

し、石橋睦美プロの指導を得て風景の撮影を始めて4年目です。その間失敗の連続で、アオリとピントに始まり、露出の測定、フィルムの取り扱い並びに撮影準備の不手際と枚挙に暇はありません。しかしながらやっと設定が終わり、最後にリリースを手にしてシャッターを押すまでの息が詰まる様な緊張感、メカニク的なシャッター音、そして現像上りを待つドキメキは何物にも代え難いものです。このように手塩にかけた作品作りの作法から、当分離れることは出来ないようです。(蔵市在住)



《総評》
「今日見た作品からすると、来年は更にレベルの高い写真展が期待できそう」との事でした。

■新宿高島屋デパートで開催された中古カメラ市(「第3回新宿クラシックカメラ博」)に、当クラブが“大判カメラ体験”で協力。「2年程前に初めて大判カメラに手を染めた、(その木製カメラの現物をご持参)、今デヒニカVで一生懸命撮影している」吉野 信プロのトークショーの後に、会員が持参した3台のリンホフでアオリ(チルト及び形の修正)と接写撮影を体験するというもの。土曜日の午後とあって、100人近くの方が吉野プロの話に耳を傾け、4x5の操作を楽しんでいました。また、今年の当クラブ写真展「日本の輝ける風景」に展示された作品17点も1週間



会場壁面を飾り、中古カメラ市に花を添えました。例年と比較して今年の中古カメラ市には、リンホフ、ジナー、トヨ、ホースマン、ディアドルフ等数多くの大判カメラが並べられていました。デジタルカメラに飽き足らなくなった人が増えてきたという事でしょうか!?

この体験教室の終了後、インストラクターを務めた会員8人でビールを呑みながら反省会。次回は、大判カメラで撮影したものと小型カメラで撮影したもの大伸ばし(全倍)写真を掲示して、違いを目で確認して貰う等大判カメラの特長をより分かりやすく解説した方がいい、との意見も出されました。



大判基礎勉強会 07.23sat.・09.17 sat. <<<

■基礎勉強会報告 今年度から隔月、奇数月に開催している新宿御苑での基礎勉強会は、アサヒカメラ誌8月号“写真道楽館”にて紹介された効果でしょうか、7月は10名ほど、9月は4名の参加がありました。1.大判写真初心者、2.アオリの理論も含め

詳細に勉強したいという人、そして3.その中間と思う人の3Gr.に分かれて、それぞれのグループに相応しい内容の勉強をしました。勉強会終了後、即入会という人は少ないものの、息長く続けていくことが会員増への道なのでしょう。次回は、11月

5日(土)いつもの通り、新宿御苑大木戸門を入りすぐの所にある休憩所に10時集合です。会員でアオリをもっと勉強したいという人の参加も歓迎です。お待ちしております。

奈良撮影会のご案内 — 申込締切は10月20日です。お急ぎ下さい!!

今年度の撮影会は、既にご案内している通り11月19日(土)~20日(日)に奈良で開催されます。まだ少数の人しか応募がありません。特に、地元関西からの応募が殆ど無く大変寂しい状況です。奈良市春日の森での撮影を楽しむと同時に、日頃顔を合わせる機会の少ない会員同志が知り合い、親睦を深める絶好のチャンスです。また、撮影地、撮影方法、カメラのメンテや便利な小道具等々貴重な情報も得られます。参加した多くの人が、「こんなに楽しいとは思っていなかった。参加して大変良かった!」と言われます。皆さんも、是非その輪の中に。応募をお待ちしています。

第2回写真展「日本の輝ける風景」 — 応募締切は9月30日です。詳細は別紙をご覧ください!!

例会・基礎勉強会・撮影会 《会場について》 公共会議室利用のため、開催日の一ヶ月前に決定致します。ホームページ等でご確認ください。

開催日	参加費	10:00~	13:00~	会場	備考
10月22日(土)	3000円	技術勉強会・講師:川太泰夫※1	作品講評会・講師:大山謙一郎	未定	※1「モノクロームを始めませんか」大判モノクロームの魅力
12年1月14日(土)	3000円	技術勉強会・講師:宇田川哲夫※2	作品講評会・講師:佐々木秀人※3	未定	※2「山岳写真の魅力」 ※3日本カメラ副編集長
11月19~20日(土、日)『奈良・春日の森』撮影会 詳細は別紙					
11月5日(土)『新宿御苑大判カメラ基礎勉強会』《無料》○時間 10:00~13:00 ○集合場所 大木戸門 売店横休憩所					

お申込方法、ご注意

- 参加希望のイベントを選択してください。
- 日本リンホフクラブ事務局に電話、ファックス、メール等で参加希望の旨をご連絡ください。
- イベント当日は時間厳守でご参加ください。なお、勉強会・講評会参加費は当日徴収致します。撮影会参加費は指定期日迄にご納入ください。
- 勉強会・講評会のキャンセル可能日は3日前までとし、以降は欠席の場合でも後日参加費を徴収させていただきます。
- 撮影会のキャンセルにつきましては、日数により取り消し料が掛かります。催行日20~8日前30%、7~2日前40%、前日50%、当日、無連絡、旅行開始後は100%となります。



《編集後記》まだ残暑厳しい8月の末、有志10数人で日本大学江古田キャンパスにお邪魔しました。同校の甲田教授に、写真学科のスタジオ、暗室等諸施設をご案内戴き、その後学校近くのカフェに移動して色々とお話を伺いました。合計4時間、久方ぶりにアカデミックな雰囲気になりました。見学記は、当日の写真と共に次号に掲載予定です。会報にもっとクラブ運営の状況が分かる様な記事が欲しい、とのお話を頂戴しました。例えば、理事会や各委員会で話し合われた事を報告する、という事でしょうか。次号以降に対応していきたいと考えています。会報も会員あってのもので、皆様のお考えを反映させていただきますので、忌憚のないご意見、アドバイス、ご提案などお待ちしております。(川太)